

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707
E-mail square@kohitsuji.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人
印刷所：S R S株式会社
定 価：一部 30 円

2014年 8月 20日
第**375**号

つ の ぶ え

絶妙な適応と

微妙なバランス

つばさ静岡 山倉 慎二

最近、つばさ静岡では30代、40代の利用者さんが増えてきました。その方々を見ていて思うことは、みなさんがこれまでの人生の中で実に絶妙な適応をし、また非常に微妙なバランスの中で生きているのだということですよ。

例えば、全く横になった姿勢(側臥位)で食事を摂られる方がいます。やってみるとわかりますが、側臥位で食事を摂ることはそう簡単にできることではありません。重力の作用で食べ物(下側になった頬)に溜まります。嚥下するのも一苦労です。特に水分などを飲み込む際は、うまくしないと鼻の方に流れていくことにもなりかねません。

あるときの方が鼻風邪をひいてしまいました。熱が出ることもなく、通常なら数日鼻をぐしゅぐしゅするだけで治つてしまうような軽い風邪です。ところが、鼻が詰まったことによってそれまで順調にできていた食事の摂取が非常に困難なものになってしまったのです。食事の際にむせがひどくなり、苦しそうな食べ方となり、食べる量も減り、ついには誤嚥性の肺炎にまでなってしまうまし

た。絶妙な適応がうまく働かなくなり、微妙なバランスが一気に崩れてしまったのです。食事を中止し、点滴の治療をして、すっかりもとの体調に戻るのには1ヶ月以上はかかったでしょうか。食事を再開するときも、本当にこのタイミングで始めて大丈夫だろうか、また肺炎になつてしまうのではないかと、ハラハラドキドキしたものです。このように、何かちよつとした体調の変化でも、微妙なバランスが保てなくなり、思いがけない合併症や二次障害に悩まなくてはならぬことになります。

重症児者の医療は支える医療です。その方が苦しくなく、痛くなく生きていけるよう支援することに重きをおきます。そこには治療のための医療とはまた違った、やはり微妙なバランスが必要ですよ。てんかんの治療をするときに、薬の投与によつて発作の頻度は明らかに減つたとしても、活気がなくなつてしまつたり、嚥下が困難になつてしまつたり、栄養学的に考えて、注入する栄養剤をよりよいものに変更したものの便秘になつてしまつたり、あるいは下痢になつてしまつたり、とよりよくしようと思つたことがかえつてあだになることもよく経験します。日々綱渡りのように慎重に、一步一步着実な前進をしていくことが大切です。

また重症児者医療は途切れることのない継続的な医療です。そのためにはいつも次の局面に備えていなければなりません。

せん。例えるならば、将棋の道とでも言えましょうか。対戦相手はその方の運命です。決して勝負を楽しむということではなく、常に先を読んで考えていないと不利な状況に追い込まれてしまうという意味です。全く同じ局面に二度出くわすということはありえませんが、以前とよく似た場面でも同じ方法が有効とも限りません。二手先、三手先を予測して待ち構えていても、ときに相手(運命)は思いがけない手を差してくることがあります。「うーん、そうきたか。」という感じですよ。そこでまた、考えに考えて次の手を打つわけですが、必ずしもこちらの思い通りに展開が進んでいくとは限りません。そのようなときには第三者の意見を求めることや多数の職種で話し合うことが大切です。「その手があつたか。」と道が開けるのです。

そうして日々様々な状況と戦いながらも、平和で穏やかな時間を過ごすことができるようにすることにこそ重症児者医療の本質があります。一方的な医療を提供するのではなく、その方が築き上げた絶妙な適応を尊重し、微妙なバランスを見極めながら、横に並んで共に歩んで行ければと思います。



にあると、組織を守り、手続きに誠実であるとするほどに、「小さい者の一人」へのアプローチを断念せざるを得ない状況に追い込まれるような気がしています。利用者のニーズの寄り添うことに熱心な職員たちからは、理念に照らして責められます。ともに管理責任を負う会議では、組織としてのマネジメント力の弱さを指摘されます。

キリスト教に限ったことではないかもしれませんが、恒久的な価値観を理想としながら、現実の世界の中で実践をする人たちは、いつの時代も理想と現実の板ばさみになってきたのではないかと思います。

創立の心の継承

創立者がいなくなっても、「キリスト教の精神に立つ」小羊学園であってほしいという思いで、理事長に就任したつもりなのですが、そのために私がしてきたことは、山浦先生をしてこられたように自分自身がまずまねることでした。具体的に挙げると、自分が所属する教会の日曜日の礼拝にはできる限り休まずに出席するように努めました。また、教区の教会が年に一度集まる教区総会に出席し、小羊学園をご支援くださる教会の皆さんに謝辞を伝えました。そして、山浦先生が亡くなるまで理事を務めておられた日本キリスト教社会事業同盟

(社事同)での交流に加わるようにしました。

また、施設長としては、小羊学園(今の三方原スクエア)で、山浦先生が開園のときから続けてきた「教会学校」と呼ばれる(キリスト教会の子ども礼拝のスタイルをベースにした)集いを続けてきました。これらのことを頑なに続けてきました。

しかし、職員たちに聖書を読むことや教会に行くことを勧めたり、職員の採用や配置にあたってクリスチャンであるかどうかを条件にしたりはしませんでした。これも、山浦先生がそうされてきたからです。利用者により支援を提供できるかどうかが大切なことであり、リーダーはチームを上手にまとめることができるかが大切なことであり、管理者は、施設全体を進むべき方向へ導くことができるかどうかが大切ですから、そのために相応しい人材が基準でした。

日本キリスト教社会事業同盟

社事同は、日本キリスト教団という日本のプロテスタント系教会では最大の教団に關係する社会福祉団体約70法人)により構成されています。聖隷福祉事業団も十字の園も構成団体です。様々な事情の違いはありますが、どの団体も、創立の精神を次の時代に如何に継承していくかということが共通のテーマ

であると思います。

社事同の理事会自体も、例に漏れず高齢の人たちが多く、世代交代という思いの中から、若輩の私も理事に加わることになり、さらに前任の理事長の体調に考慮するところもあり、数年後には理事長に選出されました。

しかし、社事同のことについても、小羊学園の職員に対しては、私が理事長になったからと言って、特別に法人としてそこへ職員を派遣したり、参加を強制したりしてきませんでした。

小羊学園らしい職員像

私は、キリスト教系の施設にクリスチャンの働き手が集まらないのは、基本的には教会の問題だと思っています。しかし、それは外部から教会を批判しているのではなく、私自身も教会に属する者として、反省する側にあると思っています。昔に比べると教会そのものに若い人たちが集まりませんし、自分の信念(信仰)に動かされ、使命を感じて誰かのため働くという職業観は、社会全体で低調です。職業を選ぶときには、自分の幸せのために働くのが当然のことと思っている人たちが多いと思います。社会福祉の仕事は志す人であったとしても、自分にとってよい仕事かどうか、職業選択のキーワードではないでしょうか。むしろ、仕事をするようになってから、支援される人

たちの生活に寄り添い、その命に触れることから、少しずつ人生観が変わってくる人たちが多いのではないかと考えています。

小羊学園の職員が特別な人たちとは思いません。より困難な利用者を何とか受け入れようとして、ぎりぎりのところまで頑張ってくれ、あれこれと様々な工夫をし、もうダメと感じたとしても粘り強く支援してくれることを通し、そこで感じる喜びを知った人たちは、知らず知らずのうちに、小羊学園の職員らしくなっているような気がします。そこにこそ創立の心は継承されていると思います。小羊学園はそれでいいのではないのでしょうか。

希望

小羊学園での出会いを通じて、「小さい者の一人」の命に寄り添うことの喜びを実感した人たちに、そこに聖書が伝えるキリストの福音があることを知ってほしいとひそかに願っています。人は誰でも自分が「小さい者の一人」であると感じることがあります。そのような経験の中で、十字架で苦悩し、絶望の淵から復活したイエスと出会うことができたなら、そのときにキリストへの信仰が芽生えるのではないかと考えています。



ぱるしあ 外壁等工事終わる

浜松市西区大山町にある放課後等デイサービス「ぱるしあ」の外観塗装工事がこの度完了いたしました。「ぱるしあ」は一般中古物件を買い上げ、昨年8月に開所しましたが、中古物件だけに傷みがある箇所も多く、豪雨時は雨漏りするなど、改修の必要性がありました。7月からの工事中は少し不便をおかけしましたが、利用する皆さんに安心して使ってもらえるようになりま



赤い羽根共同募金 受配報告



受配施設 わたぐも(生活介護施設)
静岡市葵区城北117
受配品目 ストレッチャイスケール
助成金額 468,000円
受配日 平成26年6月6日

この度共同募金会様のご厚意でストレッチャイスケールを購入させて頂きました。ストレッチャイスケールとは、寝た体勢のまま計測可能な体重計です。体重測定は利用者の健康管理には欠かせません。募金してくださった、多くの皆さまの温かい気持ちを胸に大切に使用させて頂きます。



支援センターわかぎ 秋祭り

日時 平成26年10月26日(日)
10時~14時
ところ 支援センターわかぎ
(浜松市浜北区平口5042)
催し物 模擬店・コンサート・
ワークショップ・スタンプラリー
問合せ 支援センターわかぎ 担当:渥美
☎053-587-2614

第6回 小羊学園ふれあい運動会

浜松地区の生活介護事業所が熱戦を繰り広げます。
観覧自由です!遊びにいらしてください。
日時 平成26年10月10日(金)
10時45分開会
ところ 浜北グリーンアリーナ
競技 徒競走・玉入れ・パン喰い・
リレー・盆踊り等
問合せ オリーブの樹 担当:大塚
☎053-582-3415

編集後記

世界人口白書によると、2011年に世界人口は1.18%増加で70億人を突破し、2050年を超えたあたりでは100億人に到達する勢いがある。一方で日本は人口増加率が0.07%減少しており、超高齢化社会を迎えている現実、少子高齢化対策が急務であるといわれる所以。現役世代の働き手が、生産性のない福祉を担うと産業経済そのものが衰退しかねない。とは言え、高齢者・こども・障がい者の福祉も拡充を求められる中のマンパワー不足。政治にはその先を見据えた舵取りを期待したいものである。朝夕涼しくなりました。どうぞお身体ご自愛ください。(F)

小羊学園を支える会

2014年度 寄付金報告
7月受付分 362,000円 (29件)
累計 1,519,580円 (88件)
小羊学園への寄付金振込み先
郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。
下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局(鈴木)
小羊学園本部 ☎053-584-3337